

山桜会の未来を探る

・・年会費制導入による山桜会の活動強化方針と、
母校120周年に向けての教育改革支援について・・

山桜会 会長 川原 俊明



川原会長

山桜会の活動状況

さて、新体制の山桜会は、全員参加型の同窓会活動を実践しています。そこでは3名の副会長(秋山陽彦副会長、川口正弘副会長、生川紳一郎副会長)を中心に、理事会、評議員会のほか、各委員会制度を設け、一般会員が幅広く現実の活動に参加していただく体制をとっています。

このたび11の委員会で発足した新体制も、それぞれがすでに大きな成果を上げています。

ホームページの立ち上げを果たしたIT推進委員会(馬場耕一郎委員長)、山桜会会則変更を実現した会則委員会(香山恭慶委員長)、PTAや各校の先生方との意見交換会、体育祭、文化祭での模擬店参加、スポーツ大会参加など多彩な活動を果たしてきた渉外交流委員会(北村寿彰委員長)、近く新たな会員名簿の発行を企画する会員情報管理委員会(後藤良雄委員長)、ますます紙面を刷新する山桜会会報の発行元の会報委員会(松本暁子委員長)、会員の結束、母校との絆の強化、ゴルフなどの親睦企画で会員内外の交流を企画する文化活動委員会(大向博委員長)、理事会、評議員会、総会など会務運営を下支えする総務委員会(實来扶佐子委員長)、インターシップ協力など現役生徒に対する支援活動を展開する教育支援委員会(能登知巳委員長)、山桜会の頭脳であるシンクタンク機能を果たすべき改革推進委員会(佐藤文一郎委員長)など、実に多彩な委員会が互いに協力しあって活動をしています。さらに、新年会実行委員会や総会懇親会実行委員会が、その都度結成され、山桜会の大きなイベントを成功に導いてくれます。

織である山桜会は、大正5年1月30日をもって創設時とされ、今日まで脈々とその伝統が承継されています。今般、学校法人追手門学院が新たに教育改革を唱えるなか、山桜会では、平成13年4月、現在の執行部が発足し、多くの実質活動メンバーを携えて新たな歩みを始めました。

現執行部が活動の基本として打ち出した指針は、母校への貢献ないし関与の度合いを強化することです。山桜会が、従来型の単なる卒業生同士の同窓会活動から一歩踏み出し、母校への関わりを強化する。このことによって、社会的行動を实践しようとするに至ったからです。この方針は、昭和53年に母校創立90周年を迎えるにあたり山桜会が、次の母校100周年を目指して山桜会を学院の後援団体に位置づけようと、会の呼称を「同窓会」から「校友会」に変更した経緯と合致します。

現執行部の活動も早くも2年を経過しました。新体制になって組織された11の各委員会それぞれが活発な活動を行い、当初目標に掲げた会員全員参加型の山桜会活動がまさに実践されようとしています。

また、山桜会は、卒業生に対する情報伝達手段あるいは社会への対外的広報活動手段として、山桜会会報のみならず、インターネットを利用した山桜会ホームページの立ち上げを行い、現在では会報とともにホームページが日々の山桜会活動の成果をリアルタイムに伝達するのに不可欠な広報手段として機能しています。

山桜会の母校支援方針は、すでに学院からもご理解を得て、学校法人の理事枠をすでに実質2名にまで拡大していただきました。私たちは母校に対し、今後も山桜会の役割の重要性についての啓蒙活動を深め、さらに教育改革への関わり、のみならず母校の運営により多くの卒業生が関わる方向を目指したいと思います。

序

山桜会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。このたび、山桜会は、総会決議により、運営の根幹にかかわる財務体制を刷新し、年会費制を導入いたしました。山桜会としては、心機一転のつもりで新たな歩みを始めます。山桜会会報も、今号より紙面を一新しました。そこで、山桜会の歩みと未来をみなさんとともに語り合いたいと思います。

追手門学院とともに歩む 山桜会の歴史

2008年、追手門学院は創立120周年を迎えます。

明治年に大阪偕行社附属小学校は、陸軍第4師団長高島鞆之助中将の提唱により設立された大阪偕行社がその起点となっています。以来今日に至るまで、偕行社ならびに追手門学院が送り出した卒業生は約25,000人にのぼります。

偕行社ならびに追手門学院の卒業生組